

医動物・種類同定検査結果（令和4年10月～令和5年3月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和4年10月から令和5年3月の6か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類2件(チョウ目1件、コウチュウ目1件)、その他の節足動物3件(クモ目2件、ダニ目1件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
隣地から毛虫が多数発生している。 〈10月〉	 幼虫、黄褐色、約9mm	タケノホソクロバ (チョウ目)	幼虫は、各環節に4個の黒色瘤があり、ここから白色の長い毒針毛が生えている。毒針毛に触れると、激痛を感じ、皮膚炎をおこす。 幼虫は、タケ、ササ、イネの葉を食害する。年2～3回の発生で、第3世代は10月下旬に蛹化し、越冬に入る。日本各地に分布する。
台所の食器棚の下に虫がみられる。 〈3月〉	 成虫、茶褐色、約3mm	ジンサンシバンムシ (コウチュウ目)	食性が広く、乾燥した動物質及び植物質食品類を加害する。 主な加害食品は、貯蔵穀物、粒粉、パン、ビスケットなどの菓子類、香辛料、乾燥果物、椎茸、乾燥麺類などである。
ビルの植え込み内の看板下にハイイロゴケグモと思われる虫 <small>らんのう</small> 体と卵囊を発見した。 〈10月〉	 背面	ハイイロゴケグモ (クモ目)	基本的に攻撃性はないが毒を持っており、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。咬まれても、多くの場合は軽症で、針で刺されたような痛みや、咬まれた箇所が赤くなったり、熱を感じたりする。ただし稀に重症化することがある。全世界の熱帯、亜熱帯、温帯の一部に分布する。※1
赤い模様のあるクモが玄関付近に巣を張っていた。 〈11月〉	 腹面 雌成虫、褐色で腹面に赤い斑紋 背面に斑紋がある、約10mm	 <small>らんのう</small> 卵囊、乳白色、7～10mm	

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>1年前に開封し、保存してあったパンケーキミックスでパンケーキを作り食べたところ、直後にアレルギー症状を起こした。 (11月)</p>	 <p>成虫、白色半透明、 0.32～0.42mm</p>	<p>コナヒョウヒダニ (ダニ目)</p>	<p>室内塵中に普通に見られる。特に畳、絨毯を敷いた屋内に多く発生するとされている。また本種は、配合飼料、食品、医薬品などから発見されている。食性は、塵の中のダニの死骸、破片、人のフケなどである。 また、ダニ類がミックス粉中で繁殖して人に摂取され、アレルギー症状を引き起こす事例があり、パンケーキ症候群と呼ばれている。※2</p>

※1 横浜市内で確認されたゴケグモ属については、以下のウェブページに掲載されています。

【参考】ゴケグモに注意

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kokyo/gaichu/seakagokegumo.html>

(横浜市医療局ウェブページ)

※2 検査情報月報 2022年5月号 医動物・食品中異物検査結果(令和3年度)

【参考】知っていますか？ パンケーキ症候群

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/geppo/2022/2205.files/220501.pdf>

【 微生物検査研究課 医動物担当 】